平成２８年度
第１回北斗市総合教育会議　会議録

日　　時　　平成２８年１１月１８日（金）
　　午前９時５５分～午前１１時２０分
場　　所　　北斗市役所３階　第４委員会室

北　　斗　　市

○会議日程

1　開　　会

2　協 議 事 項

(1) 教育大綱と平成２７年度教育委員会事務事業から見た進捗状況について

(2) 平成２８年度全国学力・学習状況調査及び平成２７年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

(3) 児童生徒の全国大会等への出場状況について

(4) その他

3　閉　　会

○出席者

北斗市長	高谷寿峰
教育委員長	吉元正信
委員長職務代理者	伊藤哲朗
教育委員	宗山幸夫
教育委員	村上久美子
教育委員	吉田秀美
教育長	永田　裕

事務局・説明員

副市長	滝口直人
総務部長	工藤　実
教育次長	岡村弘之
学校教育課長	小林博郁
社会教育課長	山田敬治
学校給食共同調理場所長	石坂弘之

（午前９時５５分　開会）

開　　会

○工藤総務部長　皆様、おはようございます。

本日は、大変お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございました。

これより、本年度の第１回北斗市総合教育会議を開催させていただきたいと思います。

開会にあたりまして、高谷市長よりご挨拶を申し上げます。

○高谷市長　皆さん、改めましておはようございます。

今日は、平成２８年度第１回目の総合教育会議を開催させていただきましたところ、委員の皆様には大変お忙しい中ご出席をいただきまして、誠にありがとうございました。

まずは日ごろから教育委員の皆様方には北斗市の教育の振興発展にご尽力をいただいておりますことに、心から感謝を申し上げる次第でございます。

そして今年も残すところ１か月半くらいとなったのですけれども、今年もいろんな出来事がありました。

６月に浜分小学校の田之岡君の事件というか事故というかそういうこともありましたし、また今日の議案の中にもありますけれども、今年ですね子供たちが全道大会、全国大会に数多く出場したということで、大変うれしいこともありましたし、直前にはこれからの話題になりますアスベストの問題もありまして、大変な一年間になったんではないかと思いますけれども、引き続き北斗市の子供たちのためにですね、皆様方のいろんな教育の振興に対してご尽力をいただければという風に思っているところでございます。

特にこの前ですね、北斗市の音楽祭の時に挨拶で話をさせていただいたのですけれども、市町村の魅力度ランキングというものが発表されまして、全国の１０００の自治体、内訳は７９０の都市と東京２３区、１８７の町と村、合わせて１０００の市町村に対してランキング、いろんな観点からポイントを付けてランキングが発表されました。

北斗市は魅力度ランキングでは昨年は６２５位だったのですけれども、今年は４２３位ということで２０２位ランクアップしました。

また同時に観光意欲度というものもランキングされておりまして、昨年度は４０２位だったのですけれどもこれが２９８位ということで１０４位ランキングが上がったということであります。

見方とすれば、１０００のうちのランキングが上がったといっても、まだ４００位と３００位という見方もできるのですけれども、なにぶんにも北斗市は誕生してから、名前が世に出てから１０年しか経っていないということ、それからもう一つは観光については平成２４年に本格的に取り組んでからまだ４年しか経っていないということで、それにしてはこのランキングは非常に貢献しているという評価をいただいても良いのではないかと思っております。

なぜ２００位もランクが上がったのかというと、一番大きいのは３月に北海道新幹線が開業したということ、またいろんな要素があるかと思うのですけれども、その中の１つに子どもたちが全国大会に行って、北斗の名を広めて頂いたということが魅力度ランキングに大きく反映されているのだということをこの前音楽祭の時に話をさせてもらったのですけれども、これは決してお世辞でもなんでもありませんので、どうか委員の皆さん方もそういう思いを持って、もっともっと子どもたちを励まして、活躍できるような環境を作っていただければと思っておりますので、そういうことをお願いして今日の会議を開催させていただきます。

よろしくお願いします。

○工藤総務部長　それでは協議事項に入ります前に、本年第１回目ということでございますので、委員の皆さんをご紹介申し上げたい

と思います。

なお、ご紹介を受けられた皆様、着席のままでご挨拶をお願い致します。

はじめに、いまご挨拶をいただきました、北斗市長　高谷寿峰でございます。

次に、教育委員会の委員の皆さまをご紹介申し上げます。

教育委員長　吉元正信様でございます。

次に、教育委員　伊藤哲朗様でございます。

続きまして、教育委員　宗山幸夫様でございます。

続きまして、教育委員　村上久美子様でございます。

続きまして、教育委員　吉田秀美様でございます。

教育長　永田　裕でございます。

次に、説明員、事務局の方をご紹介申し上げます。

副市長　滝口でございます。

続きまして、教育委員会教育次長　岡村でございます。

後ろに移りまして、学校教育課長　小林でございます。

続きまして、社会教育課長　山田でございます。

続きまして、学校給食共同調理場長　石坂でございます。

最後に、この総合教育会議の市役所総務部企画課で所管しておりまして、私は総務部の工藤と申します。よろしくお願いいたします。

協　議　事　項

(1)　教育大綱と平成２７年度教育委員会事務事業から見た進捗状況について

○工藤総務部長　それでは、早速協議事項の方に移らせていただきたいと思いますが、今日は協議事項として３点用意してございます。

これより会議は市長に進行をお願い申し上げまして、進めていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○高谷市長　それでは、早速ですけれども協議事項に入らせていただきます。

（１）の教育大綱と平成２７年度教育委員会事務事業から見た進捗状況についての説明をお願い致します。

○岡村教育次長　では、私の方から説明させていただきます。

協議事項１番の北斗市教育大綱と平成２７年度事務事業点検からの進捗状況ということで、資料１となります。

順番にご説明申し上げます。

まず基本方針の１番として、社会を活きる教育活動の推進という施策で４つ掲げられておりまして、初めが確かな学力を育む教育活動の推進。

主な内容としましては、「知の保証プラン」により学習支援員、補助教員の配置ですとか、ＩＣＴ機器の活用などという部分とよりよい学びを実現できるよう小中連携の一層の推進、小中一貫した教育を推進するということです。

２７年度の事務事業の実施状況につきましては、基礎学力定着に向けたフォローアップ学習の取り組みですとか、補助教員、ＴＴの配置による指導方法の工夫、少人数学級としては補助教員の配置、教職員研修会の開催ですとか、教職員の研修視察補助によっての自主研修を実施しているという現状でございます。

評価といたしましては、今後も拡充を必要としますということです。

次に、方向性の２番目になります。

人の痛みがわかる豊かな心を育む教育ということで、ここの部分では「あいさつ」の大切さを認識して、実践と定着に向けた指導を推進すると、それといじめ基本条例に基づいて、早期発見、早期対応に向けた取り組みを行う。不登校生徒には学校復帰に向けて家庭・地域・スクールソーシャルワーカーなどと

連携を図るということです。

２７年度の事業実施状況といたしましては、「あいさつ」につきましては各校においてまだバラつきがある現状で、実践に向けた取り組みが今後も必要になってきます。

道徳につきましては、副読本を活用した授業を実施しております。年間３５時間となっております。

それといじめに対しましては、対応マニュアルの徹底、それと不登校児童につきましては適応指導教室の開設ですとかスクールソーシャルワーカーの配置をして、復帰に向けた支援を実施しているところでございます。

評価といたしましては、今後についても拡充が必要であるという判断でございます。

それと、健やかな体を育む教育の推進ということで、運動能力の向上に向けた指導を図るですとか、適切な食育を推進する、それとフッ化物洗口を実施しますというような内容でございます。

２７年度の実施状況については、運動習慣を身に付けさせる体力・運動能力の向上に向けた取り組みの実施、それと栄養教諭による健康教育・食事指導等、それとフッ化物洗口実施に向けた説明会を実施しました。

平成２８年度には全小学校で実施の運びとなっております。それについても今後も拡充の必要があるということです。

４番目になります。

一人ひとりの学びを保証する特別支援教育の推進ということで、この特別な支援を必要とする児童・生徒に対しまして、個別の支援計画の作成などニーズに応じた指導の徹底を図るというような内容でございます。

２７年度の実施状況については、委員会による障がい程度の判定、これに基づく教育相談、ニーズに応じた支援、それと学校に対しましては学習支援員の配置、小学校１９名、中学校５名。

特別支援学級の開設ということで、小学校は９校で２２学級、中学校は４校で１２学級。

これは上磯小学校になりますが、「ことばの教室」というものが開設されておりまして、現在在籍は３８名というふうになっております。

総じて支援を必要とする子どもについては、増加傾向にあります。

これについては、現在の水準を維持し、最低でも現在の水準を維持する必要があると考えてございます。

それと基本方針の大きい２番目になります。

ふるさと「北斗」に誇りをもてる教育の推進ということで、施策の方向としては、１つ目にふるさと「北斗」のまちづくりを促す教育の推進、これにつきましては、「ほくと学ジュニア検定」や「ふるさとカルタ」を通して郷土の事前や歴史・文化を学ぶ施設のよさを発見する機会の充実を図るということです。

昨年の実施状況ですが、町内会行事等への参加の奨励ですとか、社会科副読本を活用した「北斗学ジュニア検定」を昨年度実施いたしました。２１０名の参加がありました。

ふるさとカルタにつきましては、小中学校並びに町内会等に配布して普及を図ったところでございます。

これにつきましても、今後も拡充する必要があると考えています。

次に方向性の２番目、ふるさと「北斗」の自然を守ろうとする教育の推進ということで、地球環境保全についての理解を深める教育活動を普及ということになります。

これにつきましては、海岸線クリーン作戦が毎年実施されておりますけれども、学校ごとの参加や自然体験学習の取り組みが行われているところでございます。

評価といたしましては、今後も拡充が必要であるということでございます。

ふるさと「北斗」の未来を拓こうとする教育の推進ということで、主な内容としては望ましい勤労観・職業観の育成に向けて、実践的、体験的なキャリア教育を推進するという

ような内容です。

この実施状況につきましては、職業体験学習による職場体験の提供と土曜授業を活用した教育環境を提供しております。

今後も、ふるさと教育とキャリア教育の連携が必要であると考えております。

これにつきましても、今後も拡充が必要という風に考えております。

次に２ページ目になります。

基本方針の３番目になります。

学校・家庭・地域が支えあい、つむぎあう教育の推進ということで、事務事業の内容としては地域総がかりの教育活動の推進。

これらの内容といたしましては、主体的に地域の子どもたちの成長を支えていけるようにしていきましょうという部分とコミュニティスクール化を検討しますということです。

あとは、情報化社会の現状や環境浄化の対策について家庭・地域への啓発活動を促進するという内容です。

昨年度の実施状況でございますが、各中学校区に存在します「健やかに子どもたちを育てる会」の組織が活動しておりまして、青少年の安全な環境づくりに貢献していただいているという現状です。

平成２８年度からは地域連絡協議会、これはコミュニティスクールを前提にしたものですけれども、これを設置いたしまして、学校を書くとした地域の活性化と学校運営に地域の力を導入しているところでございます。

これについては、今後も拡充が必要ということです。

次は、園と小などの学校間の連携強化という部分です。

幼児教育と小学校教育の円滑な接続のために、それぞれの先生方の合同研修会の機会を設けたりするなど、連携を図るということです。

それと、小中一貫した教育を目指すための小・中の連携や同一学校種間、小学校同士、中学校同士といった意味合いでの連携。

中学校・高校の連携の強化を図るという内容です。

昨年の実施状況ですけれども、小学校への就学が円滑に行われるよう、引継ぎカード等の作成や教職員の合同研修会を実施しております。

中学校進学時についても同様の引継ぎカード等を作成して実施しているところでございます。

近年では、幼保小連携会議や体験入学等によりまして、徐々に連携が図られてきているものと考えてございます。

これについても、今後拡充が必要というふうに考えております。

次に基本方針４番目になります。

子どもたちが安心して学べる教育環境整備・充実の推進として事務事業名になりますけれども、安心安全に子どもの学びを保証する教育環境の推進、これにつきましては学校施設の長寿命化と防災機能の強化を図りますという部分と、安心・安全な通学環境に向けて、地域や警察など協力し、通学路の安全を確保するといった内容です。

昨年度の実施状況につきましては、小中学校長期保全計画に基づきまして、計画的な修繕を実施しているところでございます。

また、通学路については、昨年度から通学路交通安全プログラムを設定いたしまして、危険箇所の把握ですとか点検を行いながら安全対策の実施に向けて取り組んでいる状況でございます。

今後につきましては、学習指導要領の改定に向けて、ＩＣＴ機器の導入ですとかそれに向けた検討が必要であると考えてございます。

これにつきましても、今後も拡充が必要と考えております。

それと小規模化が進む公立学校の魅力ある教育活動の推進ということで、教育水準を維持する観点から、特認校制度の充実を図るとともに「英語教育」「国際理解教育」や地域の自然環境、資源を生かした特色ある教育活

動など、魅力ある学校づくりを推進します。

それと、最適な学校教育の在り方に向け、統廃合を含めた検討と学校施設・設備の有効な活用を推進しますとなっています。

特認校につきましては、この制度を活用した学校づくりに力を入れて、各校特色を生かした学校運営を行っているという現状です。特に、茂辺地小中学校の英語教育があげられるのではと思います。

今後につきましては、保護者等の意見によりまして統廃合を含めた検討が必要になってものと考えてございます。

これらにつきましても、今後も拡充を必要と考えております。

基本方針の５番目です。

地域の教育力向上と生涯学習の推進ということで、地域を元気にする生涯学習や社会教育などの推進、これにつきましては様々な学習ニーズに答え、その成果を地域づくりや人づくりに生かせるよう、社会教育施設・設備や学習内容の充実を図るといった内容です。

昨年度の事業につきましては、青少年から高齢者まで幅広い学習機会の提供と、サークル活動への支援及び発表機会の提供を行ってきたところでございます。

評価は、今後も拡充が必要ということです。

次は、子育てや家庭教育支援の推進ということで、これにつきましては、子どもの成長段階に応じて計画的・継続的に家庭の教育力を高める学習や情報交換などの機会の充実を図る。

次に「子ども・子育て支援計画」を基本に放課後などに多様な学習を行うことができるよう放課後児童クラブなど関係部局との連携の強化を図るということです。

昨年の事業内容は、ＰＴＡ研修会による家庭教育力の向上を図っていたところでございます。

それと、放課後児童クラブの開設にって子育て環境の整備も行ってきたところでございます。

評価として今後も拡充が必要ということです。

最後の基本方針になります、６番です。

市民が主体的に関わる芸術・文化の振興とスポーツ活動の推進ということで、事業名としては文化芸術鑑賞機会の充実と文化財の保護と保存の推進となっています。

内容としては、優れた芸術文化の鑑賞意欲を高めるための公演事業や展示会実施、各種サークル・団体の育成と発表機会の充実を図ると。

それと、文化財につきましては理解を深めるために、展示や文化財に関する資料、情報提供による広報活動を推進するといった内容です。

昨年の実施状況は、かなで～る協会による公演事業の実施や、文化祭、音楽祭等による展示・発表機会の提供をしたところでございます。

文化財については、歴史を学ぶ機会の提供ですとか、資料館まつりなど文化財保護の活用と思想の普及を図ってきたところでございます。

これにつきましては、今後も拡充が必要というふうに考えます。

次、最後の部分になります。

生涯スポーツの推進とスポーツ施設の充実ということで、健康増進を目指したラジオ体操など市民への運動についての意義啓発・参加促進を図るという内容です。

それと、運動施設の計画的改修やスポーツ誘致に対応する施設・設備の充実を図るという内容です。

これにつきましては、健康増進を目的とした各種スポーツ大会、教室等の事業を展開したところでございます。

また、運動施設の拡充ということで、運動公園の拡張計画を策定したところです。

今後は、子ども、保護者、高齢者をターゲットとしたラジオ体操コンテストなどのラジオ体操の普及に努めてまいりたいという風に考えます。

今後も拡充が必要と考えているところでございます。

ひととおり説明を申し上げました。

○高谷市長　どうもありがとうございました。

ただいま、事務局の方から昨年度作りました教育大綱に対する平成２７年度の進捗状況とそれから評価の説明がありました。

評価については自己評価ですから、自己満足的なところもないわけじゃないと思いますけれども、委員の皆さんから何かご質問やご意見などありましたら、お願いいたします。

○吉田委員　ほくと学ジュニア検定とふるさとカルタに関して、これまでの経過と実施状況をお知らせください。

○山田課長　まず、ほくと学ジュニア検定でございますが、２７年度から実施しているものでございまして、社会科副読本の中から５０問出題しており、小学校３年生から６年生を対象としたものです。

昨年度は、１２月５日に実施しておりまして、受けた子どもが２１０名。

合格という部分については、点数で級付をしていきまして、満点の方には博士号、４５点から４９点は１級、４０点から４４点は２級、３５点から３９点は３級、３０点から３４点は４級という風に級付をして、認定証を授与するというかたちで行っております。

昨年の結果なのですれけども、博士号、満点の方はいらっしゃらなかったのですが、１級の方が２名、大野小学校と市内に住む附属小学校の方、２級６名、３級２４名、４級５３名ということでした。

副賞として、後援に商工会、農業、漁協が入っておりましたので、お米などを提供いただき、景品として渡しておりました。

今年は１２月３日の開催ということで、今日まで申込期間ということになっており、申込状況はまだ確定しておりません。

続いてふるさとカルタでございますけれども、こちらは社会教育委員の有志の方が中心となってカルタを昨年度２００部作成してございます。

２００部作成したカルタのうち、８６の町内会に配ったものと、小学校・中学校・幼稚園・児童クラブに配ってございます。

小学校に関してましては、規模によって配布している数が違いますけれども、全部で１８５部配っております。

今年度も文化祭の公民館会場の方で文化財保護研究会さんが毎年文化祭のときに郷土カルタ、文保研が作ってくださったカルタを使っていたのですが、今年はふるさとカルタも使っていただいたということでございます。

これからの学習体験フェスティバルでもこれを活用していきたいということで考えてございます。

○吉田委員　ありがとうございます。

○高谷市長　吉田委員、よろしいでしょうか。

あとございませんか。

○伊藤委員　体力、運動能力の向上について、表を見ると中学校の男子が２６年度から２７年度にかけてアップしているのだけれども、これの要因は。あともう１つ、どういうような種目で測定しているのでしょうか。

各種目でどういうものがアップしているのか、ダウンしているのか分かる範囲で教えて下さい。

○岡村教育次長　私の方から、体力ということで２７年度の結果になりますけれども、この次にご説明申し上げる予定の学力のカラー刷りの部分の最後のページに真ん中から右側に男子、女子で青いラインと赤いライン、黄緑のラインで表示しています。

小学校男子については、２６年度は１０２．０、昨年は１０３。女子は１００以下でありまして一昨年が９７、昨年が９９．２という状況です。中学校男子については、一昨年９５．６から１０２へ、女子が９１．９から９４．８という風になっています。

内容なのですが、全部で８項目ありまして、小学生の部だと、握力、上体起こし、長

座体前屈、反復横跳び、シャトルラン、５０ｍ走、ソフトボール投げという風になります。

比較的、小学校男子なのですが、上体起こしというのがマイナス１．２になっています。また、２０ｍシャトルランがマイナス０．５、５０ｍ走がマイナス３．３ということで、他の部分は上回っているという状況です。

小学校５年生が対象なのですけれども、女子につきましては上体起こしがマイナス４．５、２０ｍシャトルランがマイナス２．３、５０ｍ走がマイナス３．９、立ち幅跳びがマイナス１というような部分で女子なると下がっているという状況が見えます。

中学生につきましては、ほぼ同じような内容なのですが、長座体前屈がマイナス０．７、反復横跳びがマイナス０．１、２０ｍシャトルランがマイナス０．３、この３つの項目が全国を下回ったという状況です。

それと、中学校女子がマイナスの部分が多くて、上体起こしがマイナス５．１、長座体前屈がマイナス０．５、反復横跳びがマイナス１．３、持久走がマイナス１．５、２０ｍシャトルランがマイナス３．２、５０ｍ走がマイナス２．５、立ち幅跳びがマイナス３、ハンドボール投げがマイナス０．７と上回っていたのは握力のみというような現状でございました。

計画的に指導をしてもらっていまして、先程のカラーの表を見ると、昨年よりはだんだん上回ってきているとの考えでおりました。

○高谷市長　去年よりみんな良くなった理由は何でしょうか。

○岡村教育次長　学校において、一昨年の結果を受けて計画的に指導をしていただいていて、例えば持久走の場合だと、陸上専門の先生がおりますので、そちらの指導を必要に応じてもらうということが考えられます。

○伊藤委員　中学女子の場合は、重点的にやっていかないといけないようだ。

○永田教育長　追加で説明させていただきます。

浜分小・中学校では、中学校の生徒が小学校に行って、生徒が児童に対して指導しているといったことが、要素の１つかなと思っています。

○高谷市長　共通して悪いのは２０ｍシャトルのようなので、これを上げると、だいぶ良くなるのではないだろうか。

○伊藤委員　フッ素を毎年やっていると思うのだけれども、フッ素に対する父兄のアレルギーは今ほとんどないのだろうか。

○小林課長　保護者からの心配という話は出てきています。

実際、実施するにあたっては保護者からの意向確認をしておりまして、実施しないという方もいらっしゃいます。

多い学校では１００％近く実施しているのですが、低い地域になると８０％から９０％の実施率という状況になっています。

○伊藤委員　低いというのは、都市部の方なのだろうか。

○小林課長　地域的な特徴ではなくて、私達の説明不足の部分があるのだと思います。

○宗山委員　資料２枚目の３の地域総がかりの教育についてなのですが、今年度から地域連絡協議会を設置し、学校を核とした地域の活性化と学校運営に地域の力を導入するとありますけれども、土曜授業とか各学校でいろんなことをやっていると思うのですけれども、主にどのようなものがあるのか教えていただきたい。

○小林課長　土曜授業につきましては、谷川小学校で年間１０回程度やっているのですけれども、他の学校につきましては６回程度実施している状況であります。

その中で、地域で一体となった体験学習的なもの、また函館工業高等専門学校といったところの科学に興味をもつような授業などがあります。

このように地域やそれぞれの専門分野にあった授業内容で取り組んでいるところです。

○高谷市長　どうですか。いいですか。

○岡村教育次長　地域連絡協議会の分についてですが、いち早く谷川小学校が取り組んで頂いている状況にあります。

委員の皆さんには地域の人たちをお願いして、それぞれ得意分野の講師になっていただくだとか、そういったような部分で運営していっているというような部分になります。

土曜授業とリンクする部分もあるんでしょうけれども、地元の人達が先生になって子どもたちに教えてあげるとそういったいう部分が見られるのかなという風に思います。

地域の人たちが学校の応援団となっていただいて、一緒に学校運営をしていくというのがこの地域連絡協議会、しいてはコミュニティスクールの考え方ということになってまいりますので、これに向けてだんだん踏み出していけるのかなという風に思っています。

他の学校でも考え方はだいたい同じなのですけれども、それぞれの学校で準備段階という状況にありまして、一部には中学校区でというような部分もあるようですので、今後発展が期待されるかなと考えております。

○吉元教育委員長　健やか子どもを育てる会だとか地域連絡協議会の設置やコミュニティスクールのあり方といった、だぶってくる部分なのですけれども、それを将来ある程度上手いこと上手に束ねていかないとばらばらになってしまうおそれがあるのですけれども、その辺の考えをお聞きしたい。

○岡村教育次長　健やかに子どもを育てる会と地域連絡協議会のリンクする部分は大変多いと思う。国の指針でも学校支援本部事業という制度があるのですけれども、そちらが健やかに子どもを育てる会という風に理解していただいて構わない。

それを核として地域連絡協議会いわゆるコミュニティスクールに移行させていきましょうというのが文科省の考え方にあるようです。

私どもといたしましても、同じような考え方で移行できるものは移行するといったようなことで考えていっていいのかなと今思っているところです。

○吉元委員長　地域の人の考え方、地域にこの考え方を浸透させていくという努力をどのようにやっていくのが大事な気がしてしょうがない。

○岡村教育次長　委員長おっしゃるとおりで、地域の人たちに理解していただくということが大前提になってくるんだと思います。

ただ、会だけを先に先行していくというよりも、理解をしていただいた上で、こういうような会を設置していくという考え方で進めていきたいと考えている。

○永田教育長　健やかに子どもを育てる会と地域連絡協議会の違いについてですが、健やかに子どもを育てる会は学校が決めたことに対して応援をする、子どもを見守るというもの、地域連絡協議会につきましては、学校の決定事項まで地域の人が入って一緒に決めていく、何をやるかということを決めていく運営の部分まで入っていくということになる。

地域と学校が一緒に決めたものを例えば見守る会が応援していく、そういう形が一番ベストだと思っている。

国でいっているコミュニティスクールというのは、市のほうが委員さんを任命して、謝金も払って、そして人事まで口出しができるというような話なのですけれども、うちでは一気にそれに移行しないで、学校単位で独自のやり方をいま模索している状況です。

その形が一番いいのはどういうのかを検討した上で、今後はコミュニティスクールへの移行も考えていかないといけない。

○高谷市長　コミュニティスクールについては、道からも推奨されているということで、いつか取り組んでいかないといけないと思っているのですけれども、このコミュニティスクールそのものについて教育委員会で勉強会をやったことはあるのですか。

○永田教育長　コミュニティスクールをやっているところの道内視察に一度行っている。

不安な面もあり、例えば誰か１人すごい意

見を言える人が中に入った場合、校長が思うようにできなくなってしまう可能性もある。

○高谷市長　一番の国の狙いは何のだろうか。

○永田教育長　地域の考えや力を学校に反映させていくということと、地域と一緒に学校運営を進めていくというのがコミュニティスクールです。

○吉元委員長　おそらくこの次の学習指導要領に伴って、少しずつ明らかに出てくる可能性は十分ある気がする。

学習指導要領は、中々書いてあることがわからないというのが現実である。

学校見学をさせていただいても、すべてのクラスを同じように教えていることに感心する。

それが、なんだか今度は変わるようだという形のご案内もあるようですけれども、それに向けてやっぱり先生方の独自の研修というか、教職員研修会の開催、教職員研修視察補助というのがあるのだけれども、十分なのかそれに対する話は出ているのか。

○岡村教育次長　教職員研修会については、それぞれの学期ごとに全体をまとめての研修会の実施ですとか、それぞれの各小中学校単体においての研修会の実施が行われているところです。

あと、管外研修というか教職員の研修視察につきましては、これは補助金を出しておりまして、１人５万円で１２名分、６０万円予算をつけていただいて、実施しているところです。

従来は残っていた部分もあったが、昨年あたりからは全て使っていただいていて、申込みに対して制限をしなければならない状態までなってきておりますので、教職員の方の意識もだんだん変わってきて、視察研修が必要だという認識の方が増えてきたのではないかと思っている。

○吉元委員長　教職員に対する免許更新についての話でもでてきているが、学習指導要領に基づいて子どもたちに接するだけでは間に合わないという状態が出てきた。

免許更新に対する、先生自体の能力、資質向上のためには実際に自分で学びに行く、研修しに行くということがもっと大事になってくるような気がする。

ぜひ、そういう点も心の中に入れながら、この事業を進めていただければありがたいと思っています。

○村上委員　６番のスポーツ活動の推進についてなんですけれども、今現在ラジオ体操の普及に向けて努めているということですが、現在ラジオ体操の普及状況と普及に当たっての様々な問題点があると思うのでそれをどう解決していくか、あとラジオ体操のコンテストについてお聞きしたい。

○山田課長　ラジオ体操の普及でございますが、昨年広報で若干掲載しており、今年度は１０月にコンテストをやりたいということで考えていたのですが、田ノ岡くんの件で１０月に浜分小学校の運動会がずれてしまったということで、２月か３月にやりたいと考えております。

コンテストは小学生や親子などに参加いただき、決まりきった形だけでなく、いろんなことができるものとして取り組んでいければいうことで思っています。

問題というか他の地域であれば、ラジオ体操会があるのですが、基礎になるものがないので、それをどうやって拾っていくかいうことで、小学校中心に町内会の取り組んでいるところに話を聞いて広めていきたい。

また、来年度の夏季巡回ラジオ体操、夏休みにラジオでやっているものについても手を上げている状態で、当たるかどうかは１２月に決定するということになっている。

それとは別に指導者講習会というものがあり、一般向けにもできることから、そういうものにも積極的に参加をしていただけるようにしていきたい。

広めるとなると組織があれば進めやすいのだが、小学校などから啓発をしながら広めていきたい。

○高谷市長　自分が病気になった後、色んな人に話を聞くと、やっぱり何十年も自分で一人でラジオ体操している人がいるようで、その結果、健康が保たれるかどうかは別にしても、ラジオ体操を続けるということはいいことだという話を聞いた。

市民全体でラジオ体操をやることで、健康づくりにつながればいいと思っていたが、いきなり市民とはいかないので、昔ラジオ体操をやっていたということから、教育長に相談して、まずはやれるところから始めていこうということで取り組んでいる。

いろんな課題があると思うが、最終的には時間がかかっても、市民全体がラジオ体操に親しんでいけるようなまちづくり進めていければいいなという遠大な計画のもとで進めておりましたので、そういう理解をいただければと思います。

この間聞いたところでは、ラジオそのものがないというような話も聞いています。

大規模な住民センターとなればもあるだろうだけども、小規模なところだと誰もラジオを持っていないということもあるようだ。

○村上委員　１年通して活動できれば、将来的なものにつながるのではないか。

○高谷市長　北海道の場合は、屋外では無理なので、屋内でやるとすれば特定の施設を使ってやることしかできないだろう。

○伊藤委員　きっかけづくりということで、夏休みの期間だけでも市役所や分庁舎の前で金曜日の朝ちょっとやるということで、きっかけづくりになって、少しずつ輪ができるのではないか。

○高谷市長　市民に定着してきたら、ＮＨＫのラジオ体操ではなくて、市が主催してラジオ体操を１年に数回でも運動公園に集まってやるということになればいいと思っている。そうすれば、自分の家でもできるようになる。

あとはございますか。

○吉田委員　６番で、郷土の歴史を学ぶ機会とあるのですけれども、上磯高校へ会議に行った際、青森の高校と交流をしており、上磯奴をぜひやりたいという話になったということを聞いた。

上磯奴の他にも大野奴というものもある。それ以外にも有川天満ばやしと大野ぎおんばやしというものがあるのだけれども、そういうことを学ばせる機会というのはあるのだろうか。

○山田課長　大野ぎおんばやしについては、小学校のほうで取り組んでおり、講師の方を呼んで、最後発表の場を学校で取り組んでいる。

上磯奴については、上磯八幡宮のお祭りの際に上磯高校の生徒にやってもらったという経緯もある。

保存会の方と話をしながらやっていきたいと考えている。

有川天満ばやしについては、取り組む場がないので、発表できる場を設けていきたいと考えている。

学校とも話をしながら、進めていきたい。

○高谷市長　みんな無くなると困るという問題意識は持っているが、なかなか決め手がない。

色んな形で普及、発展できるように取り組んでいきたい。

茂辺地には、茂辺地奴というものもあるようだ。

あと、ありませんか。

○伊藤委員　上磯高校と大野農業高校の生徒が一緒に吹奏楽をやっているという話を聞いたことがあるのだが、せっかく上磯中、上磯小と全国大会にいっているということから、吹奏楽をやっている生徒が函館に出てしまうという話を聞いたが、中学校から、上磯高校、水産高校、大野農業高校に行く生徒で合同のチームは作れないのだろうか。

現在、どういう状況になっているのか。

○山田課長　人数までは掴んでいませんが、今年度の音楽祭でも上磯高校、大野農業高校、水産高校の３高校で出ており、上磯高校の梅原先生が中心となって合同で演奏をして

いるとのことである。

○永田教育長　高校のコンテストの方に上磯高校、大野農業高校、水産高校に森高校を合せた４校で出場しまして、昨年はＣ編成で銅賞だったのですが、今年は銀賞をいただいたということです。

徐々にではあるが、広まりが強くなってきています。

○伊藤委員　せっかく、そういう気運があるのではれば、大事に育てていきたい。

○高谷市長　全くその通りである。

上磯高校も残念ながら間口減となっているので、それを踏み留めるためにも、そういう吹奏楽の小・中・高の連携を生かした取り組みが出来れば良かったのだが、これからだと間口も減ってくるので、連携でやっていくしかない。

○永田教育長　将来どういう形になるかわからないが、いまからそういう形をやっていかないと、いきなりやるということは難しい。

○高谷市長　これから一層ＩＣＴ教育を進めていかなければならないと思うのだが、どこかの学校でパソコンが古くなるので、買い換えるよりもタブレット端末を配備して教育していくという話を聞くのだが、先生の分、子どもの分と台数をみると合わないところがあるのだが、１人１台ではないのだろうか。

○永田教育長　最終的には一人１台という形が望ましいかもしれないが、いま色々なやり方があり、４人に１人、１０人に１人といった方法でとりあえずやってみて、先生方の教え方がまだ確立されていないので、徐々に広めていこうという考え方もある。

松前中学校は、全員に充てたとか、知内の湯の里小学校では全部配置したとの話は聞いているが、まだ函館などは試験的に何台かおいているのが現状である。

○高谷市長　市も進めていかなければならない。

○永田教育長　それで先程の教職員研修ではないが、タブレットの使い方をどうしていくか、東京の進んでいる学校にチームを組んで研修に行きまして、先生方の方で研究している。

○高谷市長　北斗市の場合は、全学校に１人に１台というのは面倒だが、大規模校は４人に１台、小規模校に１人に１台というのは差別になるのだろうか。

○永田教育長　学年にワンセットで考えていた。

小規模校にワンセットだと１人１台となるが、大きいところだと２，３クラスあると４０台だけセットしてしまえば、毎回使うわけではないので、それをうまく使っていければ一人１台という使い方もできる。

○高谷市長　パソコンは、買い上げかリースか？

○岡村教育次長　買い取りです。

○高谷市長　いつかそういう時代が来るんだろうから、そういうことも考えておかないといけない。

それと、トイレ洋式化についてはすべて終わっているのか。

○小林課長　市の計画としては終わっている。

ただ、和式便器がないというわけではなく、現存している。

洋式化というのは、児童生徒数に比較して必要数の整備は完了しているということである。

○宗山委員　地域連絡協議会の件で、いい人材がたくさんいるから、子どもたちの教育や今後の成長に役立ててもらいたいと思います。

○伊藤委員　評価について、画一的な評価の仕方で抽象的すぎるので、いくらかは現実的な意味合いを込めた評価の仕方をしてもらえると助かる。

○高谷市長　来年度からは、そのように対応してもらいたい。

この１点目は、これでよろしいか。

（「はい」という声あり。）

協　議　事　項

(2) 平成２８年度全国学力・学習状況調査及び平成２７年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

○高谷市長　今年の学力・学習状況調査それから去年の体力・運動能力調査についての説明をお願いします。

○岡村教育次長　資料２になります。

この部分については、すでに市ホームページで公表しているものです。

まず、調査の目的としては、全国の児童生徒の学力や学習状況を把握、分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図るために行うものです。

また、各学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てるために行われるものでもあります。

教科に関する調査について、Ａ問題は知識に関する問題で身につけて置かなければ後の学年の学習内容に影響を及ぼす内容、Ｂ問題は主に活用に関する問題で実生活での様々な場面に活用する力や課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力などにかかわる内容となっています。

下位層については、全国の結果で下位およそ２５％と同じ正答率の範囲に属する子どもたちのことをいい、下位層の割合は低いほどいいことになります。

北斗市内小学校の平均正答率は、国語Ａについては全国差マイナス１．２、国語Ｂについては全国差マイナス２．８、算数Ａについては全国差プラス１．６、算数Ｂについては全国差マイナス１．８という風になっています。

以上から、Ｂ問題に対しての正答率が低いという状況になっています。

次のページに小学校の下位層の状況を掲載しており、国語Ｂのみが全道・全国平均を上回っています。

課題解決に向けては読み解く力を身に着けさせるために、読書週間の定着、その後の読書感想文を書くといったようなものが必要になってくると思っています。

その次のページに中学生の結果を掲載しています。

中学生については、全ての教科において全国平均を上回る結果となっています。

国語Ａであれば２．０、国語Ｂで２．５、数学Ａで３．４、数学Ｂで３．０と上回っています。

下位層の割合についても、全てにおいて全道、全国を下回り、少なかったという状況となりました。

最後のページの学力と体力の相関グラフでありますが、左上が小学校の合計点、左下が中学校の合計点となっています。

小学校は昨年１０２だったのが、今年は９８．４と若干下がったという状況です。全国から下がっているが、全道平均よりは上回っています。

中学校は昨年１０３．８が今年は１０４．４という結果となっております。

なによりも下位層の割合が非常に少なくなっている部分では、嬉しい結果だったと考えています。

右側は、先程伊藤委員さんからもいわれたところですが、体力という部分で上のほうが小学校、下のほうが中学校の結果になっています。

これを見ますと、一番課題があるのは中学校女子が９４．８ということで、全国平均からはかなり下回っているという状況です。

しかし、ここ３年くらい前から見ていくと、だんだん上回っているというような部分が嬉しい結果かなと思っています。

これは、秋の駅伝大会に運動部だけでなく、文化系の部活の人の参加も頂いているところなので、そのような効果も見られてきているのではないかと考えています。

○高谷市長　ただいまの説明に対して何か委員さんからご質問はありますか。

体力テストはいつやるのですか。

○小林課長　１学期中に行い、集計が１１

月、１２月に入らないと入ってこないという状況です。

○高谷市長　学力テストの傾向と対策といったものはあるのでしょうか。

○永田教育長　学力テスト対策のための対策は基本的にはしないでいただきたいと考えています。

わからない部分が１つでもわかるような指導をしていただきたいということで、対策としては過去問題とかチャレンジテストなのですが、過去問題についてはこういう問題が出るということで慣れる意味で１回、２回やるのはいいのですけれども、根本的にはわからない部分をちゃんとわかるように指導してくださいとなっているのですけれど、どうしても５年生の指導に力が入っている。

３年生、４年生の段階がいちばん大事なのですけれども、疎かになってしまうこともありまして、上がったり下がったりすることもあります。

そうではなく、１年生からわからない部分を確実になくしていけば、この折れ線ではなく、まっすぐ伸びていくという指導をしていくことを目指しているが、まだまだ学校では５年生を中心に来年の学力テスト対策のような形では気持ち的には残っています。

下位層が減ってきているということは、１問でも２問でもわからないものをわかるようにしていっているということに力をいれていることに間違いないと思っています。

○吉田委員　スマートフォンとかメールというのが、小学生の方で北斗市の割合が多いという結果が見られるのだが、その辺の教育委員会としての対策はあるのだろうか。

○永田教育長　これは北斗市だけの問題ではなく、隣町なども関係あるので、渡島の校長会の中でスマートフォンの取扱についての啓発ポスターを作ったり、各家庭への指導を行っている。

北斗市のＰＴＡにおきましても、同じようなものを各家庭に配布している。

○高谷市長　あとはいいでしょうか。

（「はい」という声あり。）

協　議　事　項

(3)　児童生徒の全国大会等への出場状況について

○高谷市長　なければ、次に進ませていただきます。

次は、児童生徒の全国大会等への出場状況について説明をお願いします。

○岡村教育次長　資料３－１と３－２に分かれておりますけれども、一括してご説明申し上げます。

対外競技の補助金の対象者として全国大会に出場された児童生徒ということでございます。

成績についても合わせて記載しております。

まずは、久根別小学校の１名の方、浜分中学校の３名の方、大野中学校の４名の方、上磯中学校においてはサッカーの団体で１８名、相撲で１名、空手で１名、野球で６名。

野球は、北斗ベースボールクラブというところで出場しており、学校としての参加ではないということです。

それぞれ、素晴らしい結果を出していただいたという風に思っております。

続いて資料３－２になりますけれども、これは文化系という形で上磯小学校の吹奏楽部ということで東日本吹奏楽大会において金賞を受賞しております。

それと３枚目からは上磯中学校の全国吹奏楽コンクールにおいて金賞受賞ということで５３名、上磯小学校の児童の数は５８名となっております。

どちらも最高位を取られたということでございます。

あと、全道大会についてはあまりにも数が多くなったので、全国大会に集約させていただきました。

○高谷市長　町井愛海さんについては、日本ハムファイターズの応援大使に大野選手、上

沢選手がなっていただいていて、シーズンが終わったので、来週月曜日市役所に来て、トークショーのときに町井愛海さんに賞を日ハムから贈ることになっています。

その他何かありますか。

（「なし」という声あり。）

協　議　事　項

(4)　その他

○高谷市長　それでは、予定された案件についてはこれでよろしいでしょうか。

その他何かありませんか。

○吉元委員長　腹構えとして、小規模校の統廃合の問題については、来年・再来年という話ではなくて、常に腹の底に入れて考えていかないといけないというふうに考えている。

○高谷市長　市の方としても重大なことでありますので、認識を持ちながら考えていきたいと思っています。

地域と密接に関係していくので、いろんな総合的なことを考えながら進めていきたい。

よろしいですか。

（「はい」という声あり。）

３　閉　　会

○高谷市長　それではこれで終わりたいと思います。

○工藤部長　この会議について複数回開催を予定しており、昨年は３回開催していましたが、次は年度末頃開催する予定ということになります。

以上で会議を終了いたします。

（午前１１時２０分　閉会）